



2021年度（2022年3月期）

第2四半期決算 補足説明資料

2021年11月11日

ぴあ株式会社

東京証券取引所市場 第一部

証券コード：4337

[1]2021年度第2四半期 決算について

- 1)ライブ・エンタテインメント市場の推移
- 2)決算のポイントと通期業績の想定
- 3)営業キャッシュフローの推移
- 4)営業利益の推移

[2]財務状況について

[3]主な取り組み



1)ライブ・エンタテインメント市場の推移

ぴあ総研の調査によれば、ライブ・エンタテインメント市場規模は、コロナ禍により壊滅的な影響を余儀なくされました。個人事業主の多い業界でもあり、奪われた体力を回復するためには、引き続き政府による支援の継続は必須ですが、2022年3月までにイベント開催制限が完全解除された場合は、抑制されていた市場も再び活況に転じるものと思われれます。翌2023年には「リアル」への渴望による“リベンジ消費”によって、コロナ前を上回る水準にまで復活すると予測されます。加えて、全国的に新たなアリーナや劇場がオープンしており、2023年以降も年平均成長率2.4%程度で伸長していくものと推計されます。



データ出典：ぴあ総研推計 * オンライン配信市場は推計に含まない。



2) 決算のポイントと通期業績の想定

◆当社が事業基盤とするレジャー・エンタテインメント市場においては、引き続き厳しい経営環境が続いています。徐々に持ち直しの動きはびあアリーナMMでの稼働率の上昇等で見られたものの、緊急事態宣言の延長に伴い、政府・自治体による集客イベントの開催制限(開催自体の自粛、収容人数の制限、開催時間の短縮等)も継続され、回復基調も足踏みを余儀なくされました。

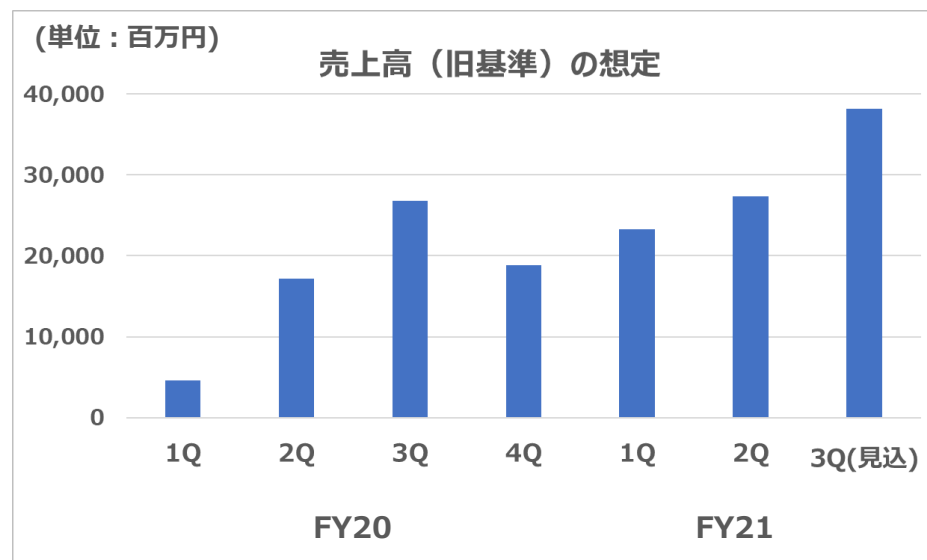
◆但し、この間のキャッシュフロー(現預金残高)は安定的に推移し、9月末の現預金は176億円、3月末比で約25億円の増加となりました。上半期累計での営業キャッシュフローも+48億円の黒字に転じました。旧基準での売上高も506億19百万円となり、対前年同四半期比で288億58百万円増加(対前年同期比232.6%)しています。第2四半期単独では、すでに償却前営業利益も黒字化されています。

◆今後、集客イベントの開催制限が緩和・解除されるに従い、売上・利益も順調に増加していくものと思われ、第3四半期には旧基準で400億円(コロナ禍前の2019年の第3四半期水準レベル)に迫る売上高への回復も見込めると想定しています。

◆一方、2022年3月期の業績予想につきましては、

- ・集客イベントの開催制限について、政府から未だその全面解除の見通しが明確に示されていないこと
- ・コロナ感染症への不安による顧客心理や、エンタメ行動の回復が不透明なこと

等により、現時点で合理的に算定することが困難であると判断し、未定といたします。今後開示が可能となった段階で速やかに公表いたします。



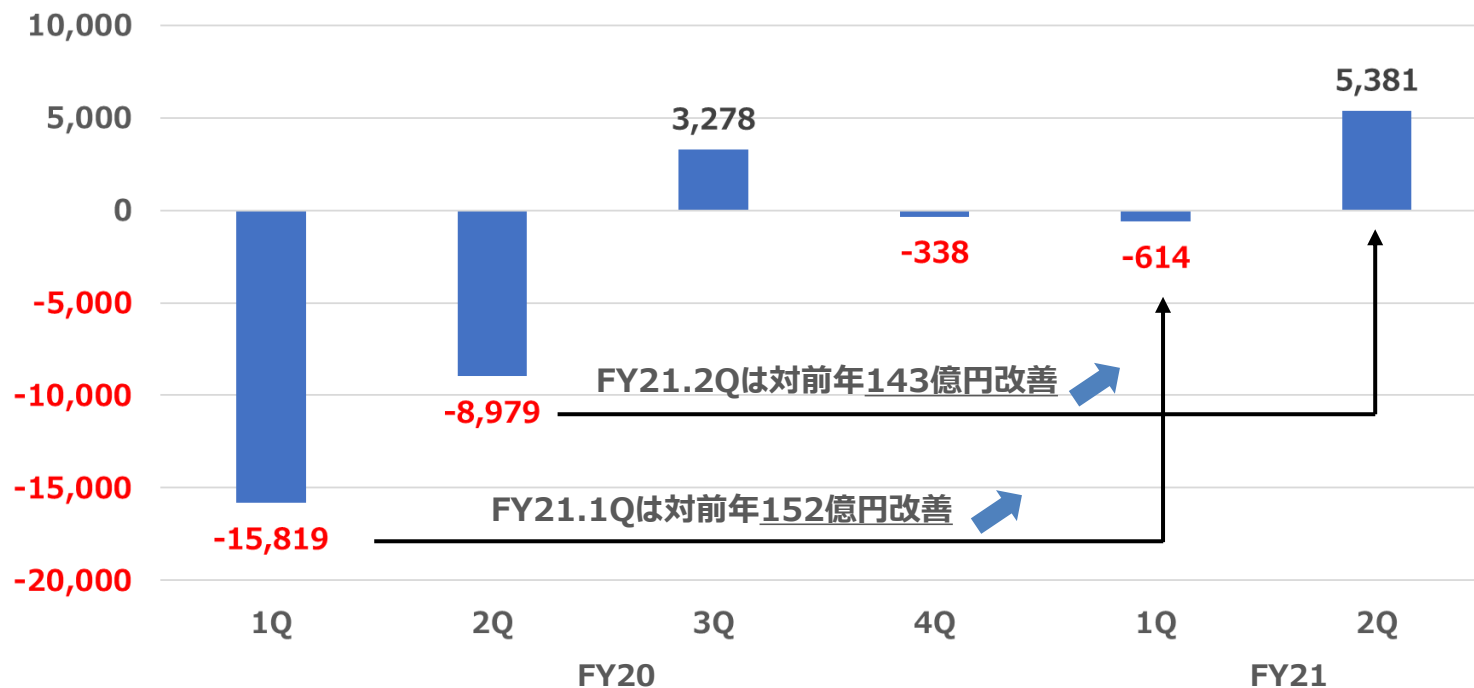


3) 営業キャッシュフローの推移

◆市場全体の回復傾向によるチケット売上の持ち直しに伴い、営業キャッシュフローは利益に先行して大幅に改善しました。上半期累計での営業キャッシュフローは+48億円の黒字化を実現、特に第2四半期単独では+54億円(対前年同期比+143億円)となりました。

(単位：百万円)

営業キャッシュフローの推移



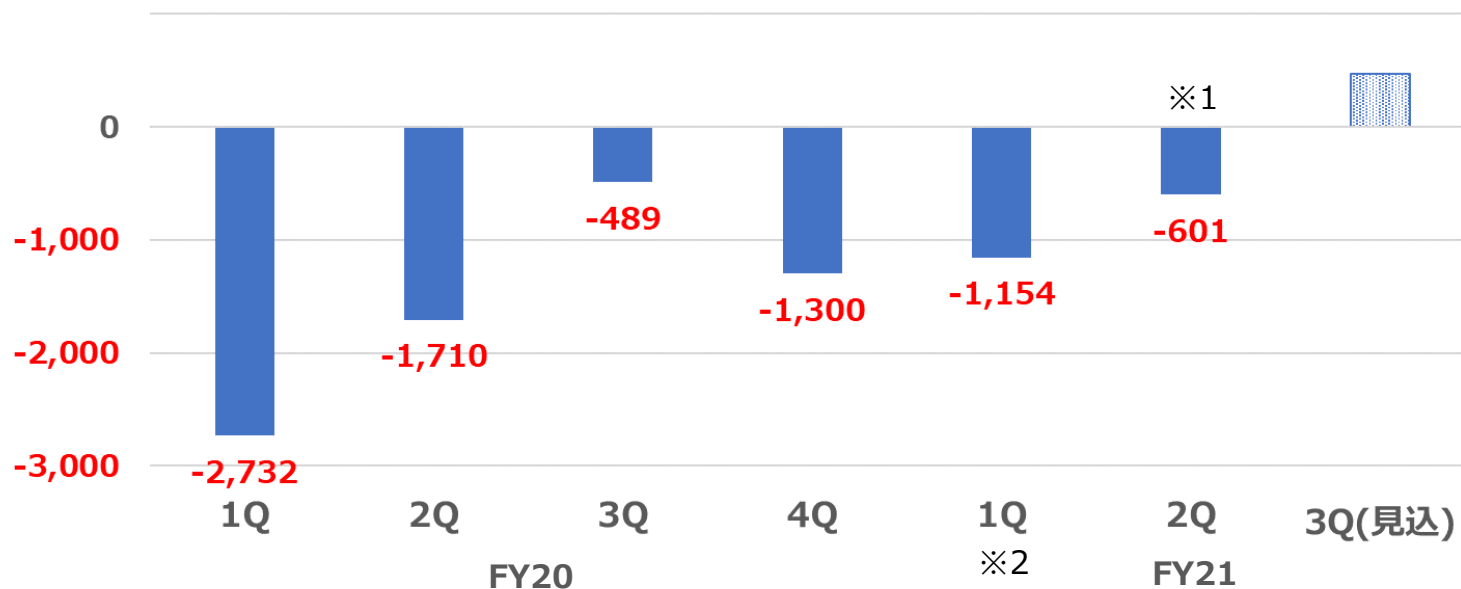


4) 営業利益の推移

- ◆ 第2四半期単独での償却前営業利益は黒字化しました。これは、緊急事態宣言発出前の2020年度以来、3四半期ぶりのことです。
- ◆ 営業利益についても、第3四半期には、現在の集客イベントへの開催制限が継続された場合でも、2019年度第4四半期以来、1年半ぶりに相応の黒字を確保できる見通しです。全社的な改善施策が奏功し、粗利率も第1四半期の6.4%から、第2四半期には7.3%と改善されました。

(単位：百万円)

営業利益の推移






※1: 償却前営業利益は、2Q時点で+13百万円と黒字化済み

※2: FY21の1Qより新会計基準によるが、FY20までの旧会計基準との差額は軽微

[2]財務状況について



- ◆チケット売上の回復傾向により、キャッシュ残高は引き続き問題ない水準にて推移中です。
- ◆有利子負債約25億円を返済したものの、現金及び預金は前期末より25億円増加しています。

単位：百万円	前期末	当期 第2四半期末	備考
現金及び預金 	15,135	17,601	チケット売上の持ち直しにより、前期末より25億円の増加
有利子負債 	28,105	25,447	キャッシュフローの良化により、短期借入金25億円を返済(7月末)
純資産 	1,910	2,144	三菱地所への第三者割当増資約20億円を実施(6月)

[3]主な取り組み

～「東京2020オリンピック・パラリンピック」が終了～



- ◆当社が、チケットシステム&サービスオペレーション業務を受託した、東京五輪が閉幕。観戦チケットは、オリンピックで約450万枚、パラリンピックで約100万枚を販売しました。無観客開催の決定後は、再抽選、払い戻し作業への対応も引き続き受託しています。
- ◆長野五輪(1998年)、FIFAワールドカップ日韓大会(2002年)などの会場運営のノウハウを活かし、期間中の全会場におけるチケットング、ゲーティング業務も一括して受託しました。ぴあ従業員を中心に約250人体制でスクランブル対応し、有観客、無観客会場での一連の業務を無事に終了しています。



[3]主な取り組み

～当社主催イベントにも復調の兆し～



- ◆コロナ下でありながらも、開催制限に準拠し、万全の感染防止対策を講じた上で、主催イベントの開催も徐々に再開しています。
- ◆特に「ぴあアリーナMM」では大規模な音楽フェスの開催を実現、多くのアーティスト、観客から高い評価を得ました。その稼働率も約7割まで回復し、来年末まで予約もほぼ埋まっています。
- ◆当社ならではのバリューチェーンを活かし、今後も主催イベントを拡大していく予定です。

パンのフェス2021初夏
(@横浜赤レンガ倉庫イベント広場)
6/18～20開催



PIA MUSIC COMPLEX
-ぴあフェス- (@ぴあアリーナMM)
10/2・3開催



MTV LIVE MATCH
(@ぴあアリーナMM)
10/5・6開催



Photo by 上山陽介

[3]主な取り組み

～業務・資本提携による連携の強化～



- ◆ 「ぴあアリーナMM」において連携をスタートし、2021年5月に業務・資本提携を行った三菱地所とは、各種プロジェクトが進行中です。
 - ・ 当社主催の「ぴあフェス」 (@ぴあアリーナMM)にて、三菱地所保有施設(ランドマークタワー他)との連携を図る“街×イベント”のトライアルを実施。フェスの来場者に商業施設利用のインセンティブを付与し、その回遊波及効果を促進。
 - ・ みなとみらい、大丸有(大手町・丸の内・有楽町)、日本橋周辺において、街の活性化、収益モデルの確立に向けた各種企画、イベントをプランニング中(12月には、東京トーチパークにて、金メダリスト・高橋尚子さんのランニングイベントも開催予定)。
 - ・ 両社が保有する施設での稼働率のアップ、活用方法の多様化を目的に定例会議を継続中。これらの有機的な実現に向け、合併会社の設立も準備中(2021年度中を予定)。

人を、想う力。街を、想う力。



三菱地所

